

全国につながる 連携の輪 江東区

オホーツク町村会の首長が山崎孝明江東区長を表敬訪問し、交流連携事業について6項目の提案事項を提出しました

未知の連携を形に育てる挑戦

自治体間交流には、「恋愛結婚」型と「お見合い結婚」型があります。例えば、多くの区は、古くからの友好都市や、防災協定を結んだ自治体など、これまで交流を育んできた相手との「恋愛」関係を自治体間連携につなげ、発展させています。しかし、今回紹介する江東区は、「お見合い結婚」型です。これまで江東区と広域連携の実績がない北海道オホーツク地域から連携のオファーがあったのは、2015（平成27）年の12月のことでした。

一緒に考え、一緒に行動する

オホーツク町村会から打診

2015（平成27）年、暮れも押し迫った12月28日、江東区役所に特別区長会事務局からの連絡が入りました。北海道町村会からオホーツク町村会が江東区と連携事業を行いたいとのファックスが届いたということです。

特別区長会と北海道町村会が連携協力に関する協定を締結した2016（平成28）年4月よりも前のことです。江東区とえば、木場の町。広大な森林資源を抱え、林業を基幹産業とするオホーツク管内の自治体が、木場のイメージに惹かれて江東区を指名したようです。とはいえ、お互いにどんな交流をしてい

くのか決めた上で交流を始めたわけではありません。

まずは2016（平成28）年6月1日、オホーツク町村会の会長・副会長が山崎孝明江東区長を表敬訪問しました。同4日には、オホーツク町村会15町村職員等18人が区内を視察。同5日に江東区で開かれた環境フェアには、オホーツク町村会の広報ブースとしてパンフレットや木のアクセサリなどの配布、はちみつ・チーズ等の試食、お酒などの試飲を行い、町村会をPRしました。翌6日には15町村職員と江東区職員が意見交換会を開催しました。

その年の11月16日、東京で全国町村長大会に出席したオホーツク15町村長が、山崎孝明江東区長を表敬訪

間し、今後の交流連携事業について

6項目の提案事項を提出しました。

具体的には、①第10回江東区環境フェア（6月上旬）への出展②町村職員江東区内視察研修③オホーツク町村職員と江東区職員意見交換会④オホーツク町村紹介・魅力発信事業企画（仮称 オホーツクむら・まちフェア魅力発信）⑤江東区職員オホーツク体験研修企画（仮称 オホーツク町村紀行）⑥オホーツク町村映像紹介資料作成調整——です。

江東区からオホーツクへ視察

そして、今年1月、今度は江東区の職員が初めてオホーツク管内の自治体を視察しました。今後の交流連携に向けた取り組みの検討材料とするためです。訪れたのは、
訓子府町、置戸町、遠軽町、佐呂間町、清水町、斜里町、清里町、大空町、津別町、美幌町の10町。

これまで江東区と自治体同士の交流があまりなかったオホーツク管内ですが、実際に訪れてみると江東区との交流につながりそうなヒントがありました。

例えば、訓子府町の菅野養蜂場

は、ミツバチの生態を通じて自然環境の大切さを伝えようと、地元の小学校で養蜂学習事業を15年以上続けています。江東区でも「ハニービープロジェクト」を立ち上げ、区役所本庁舎に隣接する防災センターの屋上に養蜂箱を設置し、ミツバチを飼育しています。

遠軽町の木のおもちゃワールド館「ちやちやワールド」には、江戸独楽職人・広井政昭氏のコマが展示されていますが、江東区の深川東京モダン館でもここ数年、「広井政昭・江戸独楽展」を開催しており、本人による実演・販売も行っています。冬は厚い氷で凍結するサロマ湖の



江東区内を視察し、区の職員と意見交換するオホーツク町村職員

芭蕉ゆかりの地で物産展に参加

(岐阜県大垣市)



おおがき芭蕉楽市に参加したコトミちゃん（左）とおがっきー（中央）

江東区は、俳聖松尾芭蕉がかつて暮らしていた芭蕉ゆかりの地です。一方、岐阜県大垣市は奥の細道むすびの地記念館を2012（平成24）年4月に開設しました。芭蕉でまちおこしをしている大垣市からのお誘いで2013（平成25）年度から毎年大垣市で開かれる「おおがき芭蕉楽市」に参加しています。「おおがき芭蕉楽市」では観光交流物産展やステージイベントが開催され、物産展では深川めしの素や江東区観光キャラクターのコトミちゃんグッズなどを販売しています。

湖上体験は、江東区のごどもたちにとって貴重な体験になるかもしれません。観光施設も多く、観光でも体験でも区民が活用できそうな資源が見られました。

現地では江東区とオホーツク管内町村職員との意見交換会を実施し、連携・交流を進めていく上での課題や疑問点が挙げられ、どのような解決手法が図れるかなど、担当者レベルでの意見交換が行われました。

視察に参加した江東区の担当者は「オホーツク15町村が一律に同じことを希望しているわけではなく、それぞれの町村によって希望が違います。今後、お互いにやりとりしながら、何ができるのか一緒に考えていきたいと思っています」と話します。

新年度は模索から実行へ

2015（平成27）年の年末にオホーツク町村会から江東区に突然にラブコールがあつて以来、これまで両者は、お互いがお互いに対して何ができるのかを模索してきました。お互いの自治体を訪問し、視察や意見交換を重ね、双方の理解を深めてきました。今年はいよいよ具体的な

事業を実行に移す段階です。

23区では全国の多くの自治体との連携・交流を行っています。その多くがこれまで培ってきた自治体間交流を継承・発展させたものです。そんな中で、江東区では、特別区全国連携プロジェクトの始動を契機にこれまであまり付き合ひのなかった自治体との新たな連携への模索を始めています。

江東区に「木場」のイメージを持つ視察に来たオホーツク町村の職員は、現地でこれまでのイメージ通りの木場ではなく、子育て世帯が集まる快適な集合住宅群や東京五輪を控えて発展するウオーターフロントに刺激を得ていることでしょう。江東区からオホーツク町村へ視察に向かった職員も、都市部にはない広々とした大地や充実した施設を見て、これまでのイメージを払拭したのではないのでしょうか。

当初は五里霧中で始まった交流ですが、お互いを学び合う中でワイン・ウインの関係が徐々に見えてきました。未知の連携を形にするため、江東区とオホーツク町村の挑戦は始まったばかりです。

こどもたちに 雪遊びをプレゼント

（江東こどもまつり）



江東こどもまつりでの雪遊び風景

例年10月に開かれている「江東区民まつり」は、江東区の自治体間連携のメッカです。1983（昭和58）年、第1回の参加自治体は大島町おおしまちょうと新島村にいじまむらだけでしたが、徐々に規模を拡大し、2016（平成28）年度は41団体が参加しています。

その「江東区民まつり」をきっかけに連携が始まったのが、岩手県きたかみし北上市です。北上市は毎年、「江東区民まつり」に出店し、交流が続いています。2014（平成26）年2月に、北上市地域・産業連携復興支援員が山崎孝明江東区長を訪問し、今後の交流について話し合った際、江東こどもまつりでの雪の活用が話題に上り、実現しました。

5月に開催している江東こどもまつり開催会場の「ふれあい広場」で、江東区と北上市・西和賀町にしわがまち（平成27年～）・夏油高原スキー場が協力して雪遊びコーナーを設置しています。夏油高原スキー場は国内屈指の積雪量を誇っており、この豊富な雪を資源として首都圏のイベントに活用し、スキー場のPRにつなげています。一方、江東区は普段は雪を見たり、触れることが少ないこどもたちに雪遊びを体験させてあげることができます。